

COMPANY PROFILE 2021



朝日工業 - 鉄鋼 -



上武 - 砕石 砕砂 -



朝日アグリ - 農業 -



朝日工業グループ会社案内



朝日工業株式会社
朝日アグリ株式会社
株式会社 上武
朝日ビジネスサポート株式会社



さあ、資源循環型社会の実現へ

資源循環型社会の実現を目指す朝日工業グループの活動は、
実は、みなさまの生活の中でひとつひとつ息づいています。

その活動領域は、いま、3領域に広がっています。



資源循環をかたちにしていく活動を、
これからも、あらゆる領域でつぎつぎと。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



経営理念

誠実で、公正、公平、誰からも愛される会社であり続けます。
良い製品、良いサービスを提供し、
地球環境に貢献し続けます。

CSR指針

社会への貢献、感謝、恩返しを
大切にします。

環境指針

環境負荷低減、地球温暖化防止、
ゼロエミッションを通して、
環境へ貢献します。



こんなところに朝日工業グループ

私たちの製品は安心して安全に暮らすために、
なくてはならないものばかり。
これからもずっと、
都市の生活も、地方の暮らしも
支える製品をつくり続けます。

3つの分野

朝日工業
鉄鋼事業

朝日アグリア
農業資材
事業

上武
碎石砕砂・
マテリアルリサイクル
事業

異形棒鋼
〈朝日工業〉



構造用鋼
〈朝日工業〉



ねじ筋鉄筋
〈朝日工業〉



木くずチップ
〈上武〉



碎石砕砂
〈上武〉



家庭園芸用肥料
〈朝日アグリア〉



種子
〈朝日アグリア〉



農家向け肥料
〈朝日アグリア〉



乾牧草
〈朝日アグリア〉



朝日工業

鉄鋼事業

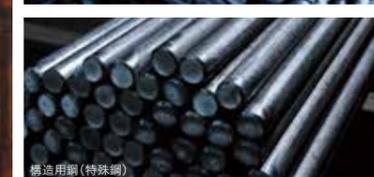
埼玉工場



生活基盤を支える強い鉄を造る。 スペシャリティ分野で攻める。

鉄スクラップを主原料として、環境に配慮した製造設備と厳しい品質管理により、鉄筋と構造用鋼を製造する電気炉メーカーです。

合同製鐵と連携し、より高い技術、より強い販売力を目指し、イノベーションとチャレンジを重ねていきます。



異形棒鋼（鉄筋）

建築分野ではマンションやオフィスビル、土木分野では高速道路や鉄道の橋脚部分などに使用され、私たちの生活基盤を支えています。

SPECIALTY

ねじ節鉄筋「ネジェーコン」

ねじ状の節を特徴とする鉄筋です。圧接の代わりにカブラーと呼ばれる機械式継手で鉄筋同士を継ぐことができ、工期短縮や天候に左右されにくいというメリットによりニーズが高まっています。



構造用鋼

構造用鋼は二次加工用の鋼材で、ボルト、ナット、ブレースなどに生まれ変わり、建築・土木、機械など幅広い分野で使用されています。

SPECIALTY

特殊鋼

細かな成分管理により、硬度、強度、粘り強さなどを調整できる鋼材で、自動車、建・産機向け部品、作業工具などに使用されています。2018年度に検査設備などを増強し、ユーザー層の拡大を図っています。



朝日アグリア

農業資材事業

関東工場



千葉工場



神川農場



関西工場



食の安心・安全を支える。
スペシャリティ分野で勝ち抜く。

種子と牧草を扱う日本で唯一の肥料メーカーです。
持続可能な農業を実現するため、国内外の研究機関や国内行政機関などと協力し、未利用資源の有効利用や省力型農業を推進しています。

肥料事業

埼玉、千葉、滋賀に工場を持ち、臭気、排水、排ガスなど環境に配慮した設備で、農家から家庭園芸愛好家まで幅広いユーザーに対応した肥料を製造しています。

SPECIALTY

有機質肥料

家畜ふんなどを原料に、独自の粒状化技術で誕生した粒状肥料をメインに、微生物資材・土づくり資材・液肥など、安全性・利便性・環境を重視して開発した有機質肥料を全国にお届けしています。

〈農家向け肥料〉



〈家庭園芸用肥料〉



種苗事業

耐病性、高収量、容易な栽培管理に焦点を当て開発された野菜品種の種子を国内外に販売しています。

SPECIALTY

カボチャ、台木、ブロッコリー

需要拡大が見込める商品として、研究開発と販売戦略に注力し、特にカボチャと台木については、海外市場のマーケティングを強化しています。



牧草事業

オーストラリア合併会社「ジョンソン朝日Pty.Ltd.」を事業の拠点に、良質な乾牧草を日本の酪農家・肉牛農家に安定的に供給しています。

SPECIALTY

オーツヘイ(えん麦)

ジョンソン朝日による徹底したトレーサビリティと品質管理の下で生産されているイネ科の製品で、糖度が高いため嗜好性が高く、特に牛の食欲の落ちる夏には好評です。



上武

碎石砕砂・マテリアルリサイクル事業

これからも地域のNo.1企業を目指す。
自然の恵みも廃棄物も大切な資源として活かす。



碎石砕砂事業

埼玉県(皆野町・神川町)に130万㎡の広大な良質硬砂岩砒区を保有しています。ここで採掘された原石はコンクリートやアスファルトの原料になり、ビル、橋、道路などの建設に使用されています。良質な碎石・砕砂を提供することによって、インフラ整備に貢献しています。



コンクリート用碎石

砕砂

道路用碎石

マテリアルリサイクル事業

建物の解体から発生するコンクリートくずを再生路盤材に、家屋の解体や樹木の伐採から出る木くずを木くずチップとして再生させることで廃棄物の削減、資源循環型社会の構築に貢献しています。



再生路盤材



木くずチップ

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

私たちの日々の活動がSDGsの実現につながる。

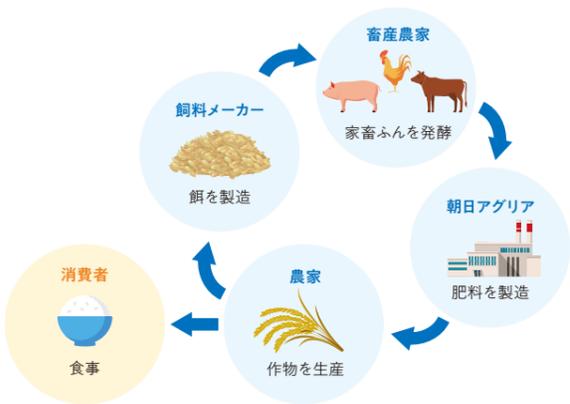
朝日工業グループは、「良い製品、良いサービスを提供し、地球環境に貢献し続けます」を経営理念に、SDGsを持続可能な社会実現のための世界の共通課題として認識し、環境や社会活動のみならず、本業である事業を通じて、SDGs達成に向けて貢献しています。

持続可能な農業を推進

土壤環境の維持・改善や資源循環を推進できる有機質肥料を生産・販売
自治体、大学と共同で微生物資材の研究開発

有機質肥料で安心・安全な農業をサポート

家畜ふん、飲料工場の排水、鶏の羽、パーム灰など廃棄されるものが肥料となり、その肥料が土を育て、作物を育み、美味しく安全な穀物や野菜、果物となって私たちの食卓に並びます。私たちは有機質肥料を通じて、資源循環型農業を推進するとともに、豊かな実りと食の安心・安全に貢献しています。



微生物が農業の新たな可能性にアプローチ

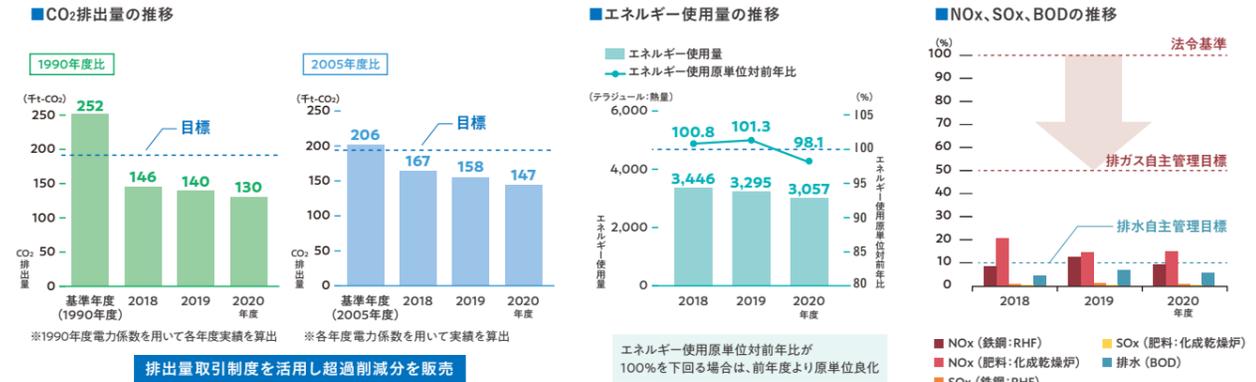
県の研究機関や大学などと共同で、土壌や鶏ふん由来の微生物資材の開発を行っています。微生物資材は土壌改良効果により微生物相改善を可能にするため、土壌伝染性病害が軽減され、農業の削減が期待できます。また、作物の根はりが良くなり、作物の生育が促進されるため、収量増加につながります。私たちは環境にも人にも優しい農業を目指しています。



水質改善、河川海洋の生態系保全・気候変動対応

中期環境行動計画に基づき、排水濃度やCO₂排出の削減目標を設定し活動
環境負荷低減に寄与する肥料を生産・販売

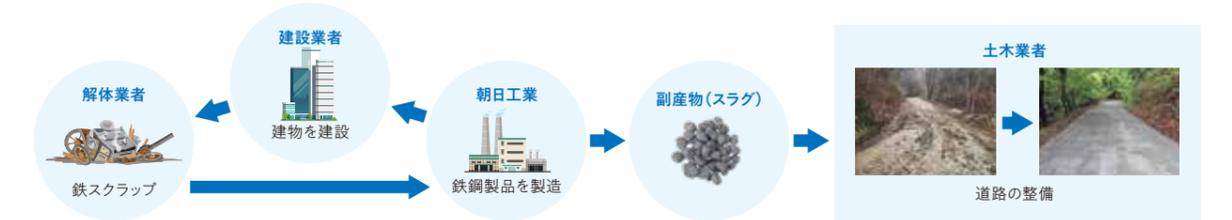
地球温暖化対策として、省エネルギー活動を推進し、CO₂排出量の削減に積極的に取り組んでいます。環境に優しい工場を目指し、排ガス・排水には法令で定められている基準値より厳しい自主管理目標を設定し、廃棄物については削減はもとより、社内の再資源化や有価物としての有効利用を推進するなど、環境負荷低減に力を注いでいます。また、環境に優しい製品の開発も私たちのミッションです。地下水汚染の原因として家畜ふんや、肥料の過剰施肥などがあげられていますが、家畜ふんを活用した有機質肥料、施肥量の削減を可能にする緩効性肥料などをお届けすることで、豊かな水資源を守っています。



持続可能な資源活用、インフラ整備に寄与

副産物の有効利用の推進やインフラ・モノづくりの基盤となる製品を生産・販売
原料から廃棄物まで再利用を推進/環境上の悪影響を軽減し、資源循環に寄与

車、船、家電類、建物やその他使用済み鉄製品はスクラップとなり、再び強固な鉄に生まれ変わり、人々が安心して暮らせる生活の基盤となります。私たちの鉄づくりはリサイクルであり、製造過程で発生するスラグも大切な資源として活用されます。さらに、環境負荷の一因となっている家畜ふんなどの廃棄物を活用し有機質肥料を開発すること、また、建物の解体で発生するがれき類やコンクリートくず、陶磁器くず、木くずなどをリサイクルすることで、廃棄物を削減すると同時に資源循環に貢献しています。



障がい者雇用 女性の参画 外国人の受け入れ

障がい者が活躍できる職場環境を整備
女性が活躍できる職域を広げ女性従業員比率を向上
外国人を受け入れ、将来の現地指導者として人材を育成

多様なバックグラウンドを持つ人々が個性や価値観の違いを乗り越え、尊重し合いながら働く喜びを共有できる職場環境づくりを目指し、障がい者の雇用、女性活躍の機会拡大、外国人スタッフの受け入れを積極的に進めています。



持続可能な森林経営と生物多様性保全

社有林の生態系保全に寄与する管理を実施/生物多様性保全に留意した事業場緑地管理を実施

各工場は豊かな自然に恵まれていますので、生物多様性に留意した工場緑地の整備、近隣の水辺や公園、道路などの清掃・緑地保全などを行い、生物の種・生態系の保護に努めています。また、ヒノキや杉が生息する約40ヘクタールの社有林(群馬県)の保全・育成を通じて、CO₂の吸収を促し、温暖化防止に寄与するとともに、動植物の生態系保護に貢献しています。

